美保地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２７年８月７日（金）　１９：００～２０：３５
２　会　場　美保地区公民館
３　出席者　地元出席者　　３０名
市側出席者　　１５名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中中核市推進監、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、木村健康・子育て推進局次長、神谷教育委員会事務局次長、奥村上生涯学習・スポーツ課長、高橋秘書課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任、國本協働推進課主事

４　中核市移行についての説明
（中核市推進監）※チラシに基づき説明

５　人口ビジョン（素案）についての説明
（企画推進部長）※チラシに基づき説明

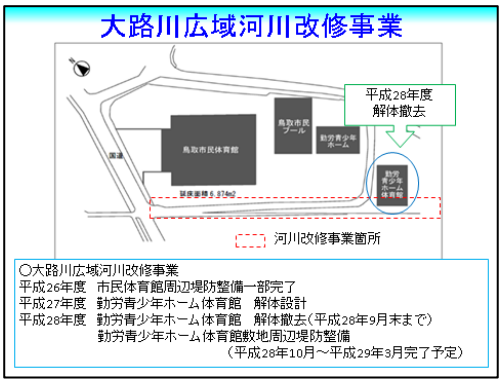
６　地域の重要課題について
１　美保地区としての小規模体育館建設のお願いについて
＜地域課題＞
平成２５年度地域づくり懇談会で行った質問の回答によると、美保南体育館は、美保地区と美保南地区の共用の体育館なので、調整しながら使うことが条件となっています。しかし、美保地区住民が美保南体育館に行くには自動車等の移動手段が必要なため、大変不便です。会場使用希望を出しても、抽選等でなかなか希望どおりには取れません。
勤労青少年体育館は、大路川改修で立ち退きと聞いているが、今後どのような計画かお示しください。
同体育館が改築となれば、体育館の名称を変更し、美保地区住民（体育会行事等又高齢者等）が気軽に使用できる体育館にしてください。

＜担当部局の所見等＞
【教育委員会】
勤労青少年ホーム体育館は、大路川広域河川改修事業（事業主体：鳥取県）により解体撤去しなければならず、最終的には解体撤去の期限が平成２８年１０月に決定しました。
現在鳥取市では、全ての施設について、「鳥取市公共施設の経営基本方針」に基づき、今後の施設のあり方、必要性を検討しており、勤労青少年ホーム体育館についても、廃止や複合化、多機能化などについて検討することとしています。
また、勤労青少年ホーム体育館の今後のあり方については、市民体育館、勤労青少年ホーム等周辺施設を含めて一体的に検討する必要があり、今年度において、有識者や利用者、

地域や住民代表の皆さんのご意見を伺いながら、今後のあり方についての方針を検討することとしています。

（教育委員会事務局次長）

勤労青少年ホームの体育館は、鳥取県が行っている大路川広域河川改修事業により、解体撤去しなければならないことがすでに決定しています。現時点での最終的な期限は平成２８年１０月ですので、９月末までに撤去する方向で進んでいます。



これから鳥取市は人口が次第に減少していきますし、財政も大変厳しい状況にあります。鳥取市は本当に多くの公共施設を抱えており、その施設がどんどん老朽化していく中で、全ての施設を改築できればよいのですが、そういうわけにもいきません。

現在、本市の全ての施設について、「鳥取市公共施設の経営基本方針」に基づき、今後の施設のあり方や必要性を検討しており、勤労青少年ホームの体育館についても廃止や複合化、多機能化などについて検討することとしています。周辺には市民体育館もありますが、ここも耐震的な面や老朽化の面で問題があります。また、プールも現在使用していない状況です。以上を踏まえ、勤労青少年ホームを含めた周辺一帯のあり方について検討していかなければならないとのことで、有識者や利用者、地域の住民代表の皆様のご意見を伺いながら、今年度には今後のあり方についての方針を決定していきたいと考えています。

現時点では、勤労青少年ホーム体育館の改築の計画はありませんし、もっと言えば、市民体育館も今後どうなるか分からないといった意味合いも含まれます。

２　山白川の袋川樋門の改修について

＜地域課題＞

山白川の袋川樋門は昭和８年に完成したもので、近年は降雨により水門にごみが詰まって近辺の住宅地へ水が逆流することがあります。その場合、吉成稲場町内会の有志がごみ撤去を行っています。また、吉成２丁目地内で田んぼが住宅地に変わり、今までの遊水池としての機能が失われました。

その意味でも、大雨の際の樋門の役割は大きいと思います。早急に改修工事を行ってください。

＜担当部局の所見等＞

【都市整備部】

河川管理者である鳥取県に確認したところ、下記のとおり回答がありました。

（鳥取県回答）

樋門流入部のごみ対策については、先般自治会役員様からご指摘をいただいており、今後、地域の皆様と対策について検討・協議を進めることとしております。

樋門の改修については、安全かつ適切な維持管理を行うため、樋門周辺への階段設置等

の改善について、今年度、調査に着手することとしています。

本市としましても、鳥取県に対し県管理河川の適切な管理を要望してまいります。

（都市整備部長）

山白川は、サイホンによって新袋川の下をくぐり、南中学校側の下流に流れています。

山白川を管理する鳥取県に確認したところ､｢樋門流入部のごみ対策については、先般自治会役員様からご指摘をいただいたため、今後地域の皆様と対策について検討・協議を進めることとしています。樋門の改修については、安全かつ適切な維持管理を行うために、樋門周辺への階段設置等の改善について、今年度、調査に着手することとしています」との回答がありました。

地域の皆様が樋門流入部のごみ撤去を行っておられることについて、鳥取県は、７月８日に行った袋川樋門上流の山白川護岸整備の説明会で初めて知ったとのことで、ごみ対策については、今後、地域の皆様と検討・協議したいとのことです。

本市としても、鳥取県に対して河川の適切な管理を要望していきたいと思います。

３　洪水時避難場所の設置について

＜地域課題＞

近年、各地で集中豪雨による被害が続出している中で、美保地区内には避難ができる３階建て以上の公共建物は数えるほどしかないため､非常に不安を覚えます｡美保地区内に、避難ができる場所の建設を是非お願いします。

＜担当部局の所見等＞

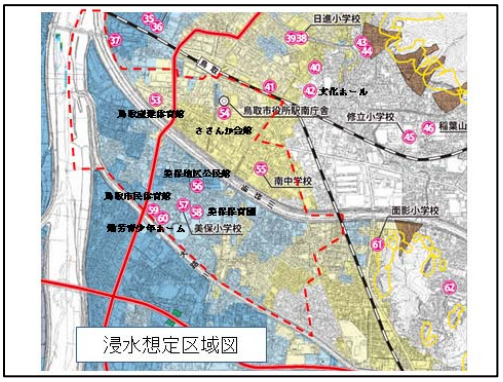
【総務部防災調整監】

美保地区は、千代川や大路川が氾濫した場合の浸水想定区域内にあり、特に千代川の氾濫では、地区のほとんどで２ｍから５ｍの浸水が想定されます。浸水区域内の避難場所を洪水の際の避難場所として使用することはできませんので､地区外の鳥取市文化センター、修立小学校、面影小学校などを避難場所として開放することになります。なお、避難にあたっては、川の近くを通らなければならない地域もありますので、早めの避難を心がけるとともに、避難する際には十分な注意が必要です。また、深夜や、浸水が始まって移動が困難になった場合は、避難場所への移動に限らず、自宅や近隣の建物などの２階以上に移動（垂直避難）し、救助や水が引くのを待つことも避難行動になるとご承知いただくとともに、さまざまな媒体からの情報入手に努めてください。本市からも早めに情報を伝達することとします。

いずれにしましても、美保地区に、浸水から避難できる場所を新たに建設することは困難ですので、千代川の氾濫の恐れがある時は、地区外の、浸水しない安全な場所への早め

の避難を心掛けてください。

（防災調整監）



美保地区はほとんどの区域が、千代川や大路川が氾濫した場合の浸水想定区域内に入っています。特に千代川が氾濫すると、ほとんどの地域で２ｍから最大で５ｍの浸水が想定されています。５ｍになると、２階建ての家が水没する程度の深さになります。

洪水の際に、浸水が想定される区域内に避難場所を設けることは危険ですので、市として避難所の設置はできません。もしも洪水の際に避難勧告を出すことになれば、浸水想定区域内ではない施設を避難場所にしますので、その時の状況にもよりますが、美保地区では鳥取市文化センターや修立小学校、面影小学校などを避難場所として開放することになります。また、その際には川の近くを通ることもありますので、早めに避難していただくことが大変重要です。

浸水が始まったり深夜などの暗い時は、避難するために外に出ることがかえって危険な場合もあります。その場合は、自宅の２階や近隣の建物の高い所に移動して救助を待つのも、方法の一つです。早めの避難が大変重要になるため、市としても迅速な情報の提供に努めます。皆様もテレビやラジオなどからの情報入手に努めていただき、自らの身を守ることに心がけていただきたいと思います。

（地元意見）

美保地区のほとんどの区域で２ｍから５ｍの浸水が想定されるということですが、私の家では、浸水したらとりあえず美保小学校や４階建ての県営住宅に緊急避難しようとよく話しています。実際に洪水が起きれば緊急の行動が要求されますが、そんな時に修立地区や面影地区などの他地区に移動するというのは、現実問題として考えられないと思います。

（防災調整監）

最近はゲリラ豪雨もありますが、雨や洪水、台風などは、地震とは違って時間的な余裕があります。避難場所ということではありませんでしたが、先日の台風の際も、とにかく早めに避難できるよう、自主避難される方のために教育センターなどを自主避難所として準備しました。

今年度、美保地区では防災マップの作成に取り組まれると聞いています。昨年、美保南地区も作成され、どの区域がどれくらい浸水し、どの時点になったら避難するかといったことをまとめられました。日頃から、洪水の場合は最大でどの程度浸水するのかを知っておいていただきたいと思いますし、浸水が始まってからの避難は大変危険なので、早めに避難していただきたいと思います。そのためには、市としても皆様に情報を提供させていただきますので、皆様も情報入手に努めていただきたいと思います。

（地元意見）

今の回答を聞くと、緊張感がないように感じます。住民が日頃から気をつけておき、洪水等の異常事態の際は各自で情報を集め、自分達で考えて判断しなさいということです。基本的にはそうでしょうが、行政側としても施策としてやるべきことはやる、という姿勢をぜひ示してほしいです。

例えば、修立小学校は美保地区からかなりの距離があります。現実問題として、修立小学校には誰も避難しませんよ。机上の空論のように感じます。高齢者には自動車を所有していない人もいますが、そういったことも想定した上で修立小学校という案を出しているのですか。

また、「日頃から」という意識をもつのが理想ですが、実際に自分の家の周りに水が押し寄せてこなければ、緊急避難という意識にはなかなかならないのが現実だと思います。そう考えると、避難できる場所を近くに設定しておくのが一番現実的な対応ではないかと思います。

私は美保校区としてはかなり外れの方に住んでいますが、そこには４階建ての県営住宅が２棟あります。学校などは夜間や休日には人が不在になりますが、県営住宅であれば常に住人がおられます。また、高台に家を建てておられる方もあります。そういった所に、緊急時の避難場所として提供をお願いするなど、市として具体的な細かい対応をお願いしたいです。自分達で交渉してくださいというのではなく、この地域ならどこに避難所があるとよいという意見を各町区から聴取し、行政が交渉してほしいです。

（防災調整監）

繰り返しになりますが、市が避難勧告などをする場合に、浸水が想定される場所に逃げてくださいとは言えないということです。また、例えば高い所に避難すればたしかに水は届きませんが、まずそこに行くまでの経路が水に浸かっていてたどり着けない場合もあります。そしてそういう場所は、たとえ行ったとしても孤立してしまいます。そんな所を避難場所とすることはできません。だから早めにということで、自主避難所として教育センターなどを準備しています。

ただ、必ずここに避難してくださいということではありません。緊急時、避難所に行く時間もない場合は、とにかく高い所に緊急避難することは当然あり得るので、そういう部分について、日頃から考えておいていただくことが必要だということです。

具体的な取り組みとしては、地区の防災マップをつくる中で、緊急時にどう対応するかなどを話し合っていただいたり、知識を得ていただくなどの方法があると思います。市役所には、消防署のＯＢの職員が防災コーディネーターとして勤務しており、お手伝いできますのでご活用ください。

（地元意見）

避難場所の提供の件ですが、市が交渉してくれて、協力してくれることがはっきり分かっていれば安心してそこに行けますが、指定された所以外には個人で勝手に行ってくださいということであれば、丸投げのような感じを受けます。修立地区や日進地区は現実的ではありません。安心・安全なまちづくりのためにも、もっと近くで安全な場所を何か所かキープして、市が、協力をお願いしますと交渉してほしいです。例えば、私の住まいの近

くにはグッドヒルがあります。グッドヒルなら守衛がいるので大丈夫だと思います。
市が避難所として指定しているのは公共施設ばかりです。

（防災調整監）
相手の意向もありますし、場所をお伺いして状況を見た結果、やはりそこより避難場所の方が安全だという結果になるかもしれませんので、この地域でこの辺りはどうだろうかといったことがあれば、まずは市にご相談いただければと思います。ただ、そこを頼んだから早めに避難しなくてもよくなるということではありません。自らを守るためには、とにかく早めに避難することが一番重要だということは認識をお願いします。

（地元意見）
美保地区は人口が多いです。避難しろと言われても、１万人以上の地区民がどこにどうやって避難すればよいのでしょうか。修立小学校や面影小学校に何人入れるのでしょうか。人口を考慮していますか。
地域でも、防災マップを作りながら各町内で考えようという取り組みはしていますが、今日の回答では市が完全に手を引いているように感じます。

（防災調整監）
どの地域に何人お住まいかといった人数的なことは把握しています。
避難対象となる方が、避難が必要な時に全員在宅されているというわけではないと思いますし、自分で避難場所を探されたり、早めに開設していた自主避難所等に自主避難されている場合もあると思いますので、全ての方が１か所に集中するという想定はしていません。

（地元意見）
私は駅南に住んでいますが、駅南には高いビルや庁舎があります。浸水が最大で５ｍとのことですが、駅南の周辺にある建物でいえば、どの辺りなら安全でしょうか。
今日の話を聞いていて、各町区が果たして日頃から避難場所等に関する相談をしているだろうかと思いました。皆に浸透していないのも事実だと思います。だから、駅南の地域であれば駅南庁舎やさざんか会館といったように、ここならいつでも避難できるという場所が知りたいです。富安二丁目や扇町などの町区では、駅南庁舎やさざんか会館を避難場所にしようという相談ができていると思いますが、役員が交代した時に継続して相談できているかといえば、役員によって違うと思います。だから、町区内で日頃の打ち合わせをする上で、そういった目安に関する情報も、下準備として必要ではないかと思います。

（防災調整監）
最大の５ｍの高さでは普通の２階建ての建物が水没してしまうことから、３階建てであれば水没はしないということにはなります。

（地元意見）

逃げ遅れて取り残された人に対する行政側の救難などは大丈夫でしょうか。テレビなどでは、大型の救命ボートが活躍しているのをよく観ますが、鳥取市の現状はどうなのでしょうか。取り残されたらそれまで、ということにもなりかねないと危惧しています。

（防災調整監）

警察、消防などがゴムボートなどを所有しており、救難を想定した訓練も日頃から行っています。さまざまな場面で「自助、共助、公助」といっていますが、被害が広範囲になって警察や消防などの手が全てに回らなくなれば、美保地区には消防団があるので、そういった組織が救助に携わることになります。

（地元意見）

先月、台風１１号が鳥取県を直撃するということで、テレビで、「鳥取市が○○（場所）に避難所を開設しました」というテロップが出ました。このテロップによって、避難所を開設したことは分かるが、その避難所の位置をどうやって探せばよいか分からないので、分かりやすくしてほしいです。

また、美保地区は地区全体が浸水地域です。避難所として一番安心なのは、若葉台の辺りです。環境大学や若葉台地区公民館などを優先的に避難所として開設すると決めてもらい、しっかりと周知してもらえれば、もっと安心です。

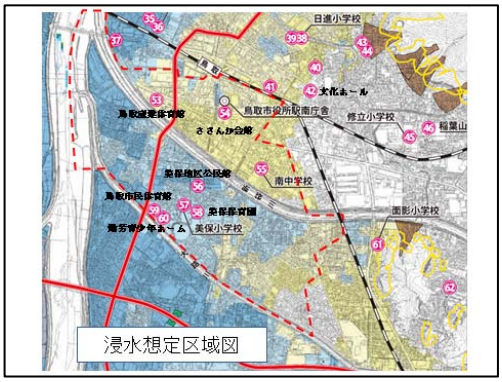
（深澤市長）

台風１１号が直撃するとのことで、今回、鳥取市の新しい試みとして、市内１０か所に早い段階で避難所を開設しました。幸いにも直撃せず、あまり大きな被害がなかったということもあって、多くの皆様が避難されたという状況ではありませんでしたが、今後も、早い段階での対応と分かりやすい周知に努め、さらに、場所も少し増やせないか検討したいと思います。

いずれにしても、早い段階で避難行動をとっていただくことが肝要だと思います。暗くなったり夜中になると、移動するよりじっとしていた方が良い場合もあります。

早すぎるくらいの対応であっても、大きな被害がなくて良かったと後で思える程度の状況で済むよう、我々もさらに取り組んでいきたいと思います。

また、千代川水系が決壊しないよう取り組んでいくことも大切ではないかと思います。鳥取地域は水害に悩まされた歴史があり、古くから千代川の改修に取り組んできました。大正年間から昭和にかけては河口のつけかえを行っていますし、今も殿ダムの建設や大路川の改修などの河川改修に取り組んできているため、他地域と比較して、浸水被害等は少ないと思います。浸水被害が起こらないよう、今後もしっかり取り組んでいきたいと思います。



浸水想定区域図

７　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

数日前に、鳥取自動車道で死亡事故が発生しました。こういう機会を捉えて、追い越し車線やゆずり車線の延長について陳情した方がよいと思います。鳥取自動車道の中で、追い越し車線は事故が発生した所にしかありません。そのため、追い越し車線に入るまでは、少しいらいらしながら運転することが多いです。

（深澤市長）

先日の鳥取自動車道での事故は、大変大きな事故であり、残念に思っているところです。特に、お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、けがをされた方に対しても、お見舞いを申し上げたいと思っているところです。

ゆずり車線については、４か所について取り組んでいただくことになっています。また、私は鳥取自動車道沿線振興協議会の会長を務めており、４車線化の実現と追い越し車線の早期供用開始について、関係自治体の皆さんとともに国土交通省にお願いをし続けています。今回の事故も踏まえ、さらに要望していきたいと思っています。

（地元意見）

総合戦略素案の項目を見ると、非常に多くの項目が並んでいますが、実施に関する進捗状況をインターネット等で見られれば状況がよく分かるし、市政の取り組みにも関心が持てると思います。

（深澤市長）

総合戦略は、全国の自治体で早く策定することになっており、鳥取市は９月末にはまとめていきたいということで、今は素案を作成したところです。今後、いろんなご意見をいただきながら、もっと詳しく、もっと良いものにしていきたいと思っています。

今は、完成形を目指す最終段階の時期にありますので、随時、状況はお示しさせていただきたいと思っています。また、今日は素案の段階で皆様にご覧いただいていますが、完成したらホームページ等で速やかに公開したいと考えています。

さらに今後は、総合戦略に基づいていろいろな取り組みを進めていくことになりますが、取り組みを進めるにあたってはＫＰＩという目標数値のようなものを掲げ、そのＫＰＩを実現できるように進めていくことになっています。この進捗状況についても、皆様に分かりやすくご確認いただけるようにしていきたいと思っています。

（地元意見）

鳥取市の緊急の課題として雇用対策は非常に大切だと思うし、市も大変頑張っているようですが、鳥取県内をみると、米子市では電気自動車メーカーのナノオプトニクス・エナジー、鳥取市では電動バイクメーカーのデンバジャパン株式会社やアロイ工業株式会社な

ど、せっかく税金を使って企業誘致しても実質的に破綻、あるいは破綻状態になっている企業もあります。

企業の将来性について判断するのは困難だろうとも思いますが、この企業が本当に将来性があるかどうか、市はもう少し目利きになってほしいです。

（深澤市長）

せっかく企業を誘致したのに経営がうまくいかないということがないように、という趣旨のご意見だと思います。私も、大変重要なポイントだと思っています。

市としては経営状況や雇用計画、売上高など、いろいろな調査をしていますが、最近では、これからの時代に有望な分野の業種であるか、また、地場産業にも波及効果が期待できるか、などのさまざまな視点で選んで誘致活動を行っています。

デンバジャパン株式会社は、非常に新しい電動バイクの会社でした。また、アロイ工業株式会社はリチウムイオン電池というこれからの分野の会社です。アロイ工業株式会社については、ＩＳＯの認証取得が少しネックになって取引先との関係がうまくいかなかったということで、雇用の面でいえば離職を余儀なくされた方もありましたが、今後は経営状況が回復していくことを期待しているところです。

引き続き、将来有望な分野の企業、あるいは鳥取市の雇用の創出に貢献していただける業種や業態を選択し、しっかりと誘致していきたいと思っています。

（地元意見）

企業誘致も一つの方法だと思いますが、在宅勤務についても考えてみてほしいです。

鳥取市は子育て支援に取り組んでいますが、在宅勤務は女性が働きやすくなるための一つの選択肢です。また、今後ＩＣＴ化がますます進めば、若い人達はＩＣＴの分野でどんどん力が発揮できるのではないかと思います。鳥取市の職員でも、子どもを育てながら働いている女性職員は多いと思います。そういう職員も仕事をしやすくするためには、市役所に張りつきではない勤務形態も考えていくと良いと思います。

（深澤市長）

鳥取市の女性職員のことも思いやっていただき、本当にありがとうございます。ＩＣＴ技術は今後ますます進化しますので、やがては、会社に出勤することなく自宅でパソコン等を活用して仕事をするという時代がやってくると思います。もうやってきているかもしれません。

さまざまな勤務形態があると思います。何よりも、女性が子どもを産み育てやすく子育てがしやすい環境を皆でつくっていくことが非常に大切だと思っていますので、市職員に対しても、市役所がそういう環境であるよう、できる限り意を用いてきているところです。

働きやすく育児休暇も取得しやすい、子どもの調子が悪くて病院に連れていきたい時には時間休暇も取得しやすいなど、いろいろあると思いますが、市職員だけではなく鳥取市の女性の皆様の子育て環境を整えていくよう、民間企業の皆さんと一緒に、今後もしっかり取り組んでいかなければならないと思っています。

（地元意見）

アベノミクスの成長戦略の中には農業改革も挙がっていますが、オーストラリアやアメリカなどの広大な農地を所有している国と日本が競争しても、ＴＰＰの問題等もあり、非常に難しいのではないかと思います。

日本は、関東平野以外はほとんどが山林です。そこで、農業だけではなく林業にも目を向けてはどうかと思います。隣の岡山県には、真庭市の銘建工業や西粟倉村の森の学校など、林業を活かした成功例もあります。

林業が衰退したのは、木材の自由化で価格競争に破れたからということですが、最近では、ロシアが自然保護の為に輸出をしなくなっているという話もあるし、日本では、戦後植林した杉やヒノキがちょうど伐採時期にきています。木材を使用した高層アパートの建築も認められるようになるという話を聞きました。ヨーロッパの方では、６階建てや７階建てのマンションも建築されているようだし、林業は鳥取の地場産業でもあるので、検討してほしいです。

（深澤市長）

農林水産業、第一次産業を立ちゆくようにしていくことが、まさに地方創生の取り組みです。鳥取市においては、農林水産業を基幹産業と位置づけていますので、今後もしっかり取り組んでいかなければならないと思っています。真庭市の例も挙げていただきました。木質バイオマスの活用により、かなりの電力を賄っておられるという先進例もありますので、大いに参考にさせていただきたいと思っています。

戦後植林された杉やヒノキ等が伐期を迎え、伐採して使用するのに非常に適した時期にあります。木材価格は低迷していますが、利活用していくことは必要だと思います。

鳥取市は合併によって大変大きな市になりました。面積が７６５ｋｍ^2、そのうち山林は５４６ｋｍ^{2}であり、かなりの割合を占めています。林業の振興には、山林の保全や水源涵養、または環境保全やＣＯ$_2$の削減など、いろいろな効果もあります。

今でも、間伐の助成や作業道の整備の助成などを行っていますが、支援策についても今後さらに充実させていきたいと思います。

（地元意見）

６年前に美保地区まちづくり協議会が発足して以降、いろいろな知恵を絞りながら努力を重ねてきました。先日開催した納涼祭でも、市の協働のまちづくり助成事業交付金を活用して、簡易的なやぐらを作りました。

交付金として、毎年鳥取市から４５万円もらっていますが、美保地区は人口１万人の地域です。一方で、山間部には美保地区の人口の１／１０以下の地区もあるが、交付金の上限額は全地区が一律です。これでは不公平だと思います。いろいろな事業を実施するためにはお金が必要なので、検討してみてほしいです。

これは、自主防災会についても同じことが言えます。自主防災会が果たす役割は非常に大きいが、備品を一つ揃えるのにも、交付金が順当に回ってこなければ整備することができません。再考をお願いしたいです。

（深澤市長）

このことについては、他の地区、特に人口が多い地区からも、人口が少ない地区と横並びなのはおかしいのではないかというご意見を折々に伺っており、市役所内部でも担当部長等と話し合って検討しました。

お考えは大変よく理解できるのですが、ではどういった差をつけていくのかという問題があります。人口割というのも一つの方法ではありますが、現実的には、まずはそれぞれが横並びということが基本にあって、その上で、いろいろな補助事業や支援事業をご活用いただくのが良いと思っています。

お気持ちはよく分かりますので、再考とまではいかないかもしれませんが、どういった方法があるか、引き続き研究させていただきたいと思っています。

（地元意見）

人口割でするのが一番簡単ですが、それでは地区間の差が大きくなるので、半分を一律にして半分を人口割にすれば、不公平感はあまり出ないと思います。

（深澤市長）

市役所内部でも同様の案が出ましたので、一つのアイデアであるとは思っています。一部は横並びにして残りは人口に比例させる方法や、他の要素で少し差をつける方法も考えましたが、実際に検討するとなると、割合は半分でよいのか、どの程度差をつけるのかなど複雑な課題があり、実現はなかなか難しいと考えていますので、引き続き研究課題とさせていただきたいと思っています。

（地元意見）

鳥取駅から北側は「１００円バスくる梨」がかなり多方向に運行していて大変便利ですが、駅の南側の地域もかなり人口が多く、高齢者も増加しています。

どういう基準で運行しているのかよく知らないが、駅南地域への運行も検討してみてほしいです。

（深澤市長）

くる梨は３コースあり、２０分間隔で運行しています。駅の北側の地域でも、運行コース外の地域の皆様からは、「自分の地域の近くまで運行しているから、もう少し延長して地域内も運行してほしい」というご要望をよくお聞きします。しかし２０分間隔を考慮すると、こちらを回るようにするとあちらが回れなくなるなど、難しい面もあります。

今後高齢化が進むにつれ、ご自分で車を運転することが難しい方も増えてきます。将来に向けて公共交通をいかに維持、確保していくかというのは、行政にとって非常に大きな課題だと考えています。路線バス等を有効活用する方策も併せて考えていかなければいけません。駅南地域だけではなく、全市的に考えていかなければいけない課題の一つだと思っていますので、今すぐにというのはなかなか難しいと思いますが、ご提案として承りたいと思います。

（地元意見）

久松公園周辺や若桜街道、鳥取駅周辺など、鳥取市が力を入れているまちづくり構想がありますが、そういう意味で駅南地域は政策的に少し弱いのではないかと感じています。

若桜街道や智頭街道ももちろん重要な地域ですが、人口増加やまちの景観等を考えると、むしろ駅南地域の方が今後の変化が大きいことは明白です。インターチェンジも近く、新しい市役所の庁舎も駅南にできます。

そんな美保地区を中心とした駅南地域の、新しいまちづくりの構想を聞かせてください。

（深澤市長）

中心市街地はそのまちの中心で、経済活動があり、歴史や文化などのさまざまな面を持ち合わせたエリアです。しかし中心市街地では今、人口が減少し高齢化が進んでいる中山間地域と同様の現象が起きています。かつてはそのまちで一番賑やかだった中心市街地が衰退していく、これは全国的に共通した課題です。そこで鳥取市では、２１０ヘクタールあるまちなかの活性化を図っていこうということで、平成１９年１１月３０日に国の認可を受け、５年間の「中心市街地活性化基本計画」を策定しました。今は第２期計画の３年めになります。平成１９年１１月のまちなか人口は１万２，２６８人でしたが、徐々に減ってきたため、計画の中で、まちなか人口を４％ほど増やそうという目標を立てました。しかし実現は困難で、今では非常に高齢化が進んで人口減少が著しく、商業活動も停滞、衰退している状況にあります。この、まちの中心、まちの顔を何とかしなければいけないということで、引き続き、計画に基づいてさまざまな事業を展開しているところです。

一方では、中心市街地だけでなく、全市的にまちづくりを進めて発展を図っていくことが必要です。そこで、鳥取市のまちづくりを今後どういった構想で進めていくかについて、現在「都市計画マスタープラン」を策定しようとしているところです。

市役所本庁舎の新築移転問題についても先行きが見えない状況が５年ほど続いていましたが、これからは基本実施設計を発注し、どういった庁舎にしていくべきかの具体的な検討に入っていく時期になります。

今後、駅南地域はまた大いに発展していくと思っています。将来を見据えて、どういうまちにしていけばよいか、どういう事業を展開していけばよいかなど、皆様と一緒に考え、多くの皆様のご意見をいただき、一緒になって取り組みを進めていきたいと思います。

（地元意見）

市役所の新庁舎が旧市立病院跡地に移転するのは、もう間違いないと思っています。新庁舎の建設予定地の向かいに年金事務所がありますが、年金事務所から鳥取駅に向かう道路の先はロータリーで行き止まりになっています。あのロータリーを撤去し、駅南庁舎に抜けるようにして産業道路までつながるようにすれば、駅の南口がとても良くなるのでないかと思います。

（深澤市長）

実は、あそこは暗渠になっていて山白川が下を流れていますので、歩行するには支障はありませんが、車両が通行するには少し強度が足りません。あそこが通り抜けになると便

利なので我々も少し検討してみましたが、重さが支えられず少し難しい状況ですので、通り抜けのような形には当面できないのではないかと考えています。

（地元意見）

以前、県道八坂鳥取停車場線のアベ鳥取堂側を道路拡張して歩道ができると聞いていたが、あの計画はどうなりましたか。以前産業道路から南の住民には相談があったようですが、地区住民から反対が出て話が止まったようです。産業道路から北側には相談もありませんでした。

アベ鳥取堂の前の歩道は毎日自転車が走りますが、縁石に自転車のペダルをひっかけて倒れて怪我をした人が２、３人います。また一昨年には、軽自動車を運転する高齢者がアクセルとブレーキと踏み違え、軽自動車が縁石をまたいでブロック塀にぶつかる大事故もありました。幸い怪我人はありませんでしたが、３分ほど前にはそこを人が歩いていたそうです。その人は命拾いしたと思います。安全のためにも、計画があるなら何とか進めてほしいです。

（深澤市長）

都市計画道路という線引きはしてありますが、現時点ではそれを具体的に進めていくという状況にはまだありませんので、事業が進めていけるよう引き続き検討していきたいと思います。

（地元意見）

私は人権擁護委員をしています。今年４月に「生活困窮者自立支援法」が施行されました。必須事業もあるようなので、鳥取市の取り組み状況を教えてください。

（深澤市長）

今年度からスタートした「生活困窮者自立支援制度」には、必須事業と任意事業があります。鳥取市では必須事業として、人権交流プラザに相談員を設置し、自立に向けた相談業務を実施しています。任意事業については、状況を見ながら検討していきたいと思っています。

（担当課補足：生活福祉課）

必須事業としては、生活困窮者の相談や支援を行う「鳥取市パーソナルサポートセンター」を設置し、主任相談支援員１名と相談支援員２名を配置して、相談・支援業務にあたっています。

他に、住居確保給付金事業は、解雇されて住居を喪失した方や、解雇により家賃を支払えなくなり住居を喪失しそうな６５歳未満の方の住居確保事業を、有期で行っています。

任意事業につきましては、生活保護受給者を対象とした就労支援事業や生活保護家庭の子どもの学習支援事業を行っています。

（地元意見）

町内会の小地域懇談会は、以前は同和問題を主とした研修会が多かったが、最近では、高齢者虐待や介護疲れに始まり、健康年齢や健康寿命など、健康維持の大切さを聞く講演会が多くなりました。

私は「第９次総合計画」に絡めて、５年前に一度、「大きな大会を開催するような大がかりな体育館でなくてよいが、地域の高齢者が体を動かせるような場所が欲しい」と提案したことがありますが、実現には至りませんでした。

美保地区には、市民体育館も産業体育館も勤労青少年ホームの体育館もありますが、使用したいと思っても抽選会があります。高齢者が体を動かすのに、あらかじめ日にちを決めるということはなかなかできません。

地区体育館を所有している地区もたくさんあるので、美保地区にも地区体育館が欲しいという要望もありますが、総合計画に掲載されているように、高齢者が元気に暮らしていけるためにも、体を動かせる場所が身近にあれば非常にありがたいです。施設整備を検討してほしいです。

（深澤市長）

施設整備は検討課題だと思いますが、これから超高齢社会を迎えるにあたって、健康寿命をいかに延ばしていくかが非常に大切な課題になります。地域でさまざまな取り組みをされている例もあります。

「第１０次総合計画」の中でも、高齢化社会にどう対応していくかということはしっかり位置づけていくこととしていますし、今年度から「第６期介護保険事業計画」や「高齢者福祉計画」もスタートしたところです。この中で一番大きな柱は、地域包括ケアシステムの構築です。

在宅医療と介護をいかに適切に提供していき、介護、医療、予防、暮らしを、総合的に地域の皆様と一緒にどう支えていくのか、そういった事に関する仕組みづくりを、鳥取市はまさにこれから進めていこうとしています。高齢者の皆様が体を動かすことも非常に大切な事ですので、地域包括ケアシステムを含めて、総合計画の中にもしっかりと明確に位置づけていきたいと思っています。

８　市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

予定の時間も大幅に経過していますが、本当に熱心に、また多岐にわたっていろいろな質問、ご提言、ご意見をいただきましたことに、まずもって心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

あらかじめ３件の地域の課題をいただいていましたが、それにとどまらず、高齢化社会にどう対応していくのかというご提言なども含めて、さまざまなご質問をいただきました。

鳥取市は、将来を見据えてまちづくりに取り組む、非常に重要な時期にあると思います。国も地方創生ということで、総合戦略や人口ビジョンをしっかり策定して取り組むよう言っていますし、鳥取市は来年度から、「第１０次総合計画」もスタートします。

合併１０年を経て、平成３０年４月には中核市へ移行しようとしています。今こそ鳥取市の持っている持ち味や特性や資源を最大限活かし、多くの皆様の英知を結集して、まち

づくりを力強く進めていかなければならないと思います。私も皆様と一緒に、全力で取り組んでいきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

長時間にわたり熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。